

---

---

## IV.回答者の特性と母集団との比較

---

---

# 1. 調査回答者と母集団の分布

		母集団 (N=540,940)		集計数 (n=7,080)			
		患者数	%	回答者数	%	代表患者数	補正後%
分類	希少がん	28,806	5.3%	797	11.3%	24,325	5.0%
	若年がん	12,005	2.2%	709	10.0%	11,714	2.4%
	一般がん	500,129	92.5%	5,574	78.7%	454,139	92.6%
性別	男性	308,544	57.0%	3,688	52.1%	261,120	53.3%
	女性	232,396	43.0%	3,368	47.6%	226,455	46.2%
	無回答	-	-	24	0.3%	2,602	0.5%
年齢	平均 (歳) (SD)	68.3	(12.7)	66.4	(15.3)	69.4	(12.3)
	最年少	19	-	21	-	-	-
	最高齢	106	-	106	-	-	-
	無回答	-	-	643	9.8%	49,809	10.2%
ステージ	0期	1,019	0.2%	381	5.4%	28,713	5.9%
	1期	207,463	38.4%	1,960	27.7%	138,653	28.3%
	2期	100,740	18.6%	1,181	16.7%	83,839	17.1%
	3期	87,324	16.1%	899	12.7%	66,229	13.5%
	4期	109,475	20.2%	1,099	15.5%	74,347	15.2%
	わからない	34,919	6.5%	1,339	18.9%	84,015	17.1%
	無回答	-	-	221	3.1%	14,382	2.9%
がん種	乳がん	54,668	10.1%	959	13.5%	67,321	13.7%
	大腸がん (結腸・直腸)	57,313	10.6%	1,023	14.4%	83,948	17.1%
	胃がん	72,481	13.4%	986	13.9%	79,742	16.3%
	肺がん	69,171	12.8%	871	12.3%	65,568	13.4%
	肝臓がん	19,449	3.6%	289	4.1%	23,112	4.7%
	前立腺がん	48,475	9.0%	737	10.4%	53,899	11.0%
	子宮がん (頸がん・体がん)	20,828	3.9%	414	5.8%	22,703	4.6%
	卵巣がん	7,013	1.3%	151	2.1%	9,683	2.0%
	食道がん	15,146	2.8%	227	3.2%	17,953	3.7%
	すい臓がん	20,218	3.7%	177	2.5%	12,904	2.6%
	口腔・咽頭・喉頭がん	20,396	3.8%	382	5.4%	18,367	3.7%
	甲状腺がん	9,229	1.7%	205	2.9%	9,903	2.0%
	悪性リンパ腫・白血病	29,634	5.5%	515	7.3%	32,994	6.7%
	骨・軟部腫瘍	2,253	0.4%	100	1.4%	5,021	1.0%
	脳腫瘍	3,627	0.7%	102	1.4%	4,910	1.0%
	膀胱がん	13,519	2.5%	178	2.5%	13,755	2.8%
	精巣腫瘍	1,765	0.3%	50	0.7%	1,459	0.3%
	原発不明がん	-	-	40	0.6%	3,332	0.7%
	その他	75,755	14.0%	645	9.1%	38,346	7.8%
	無回答	-	-	147	2.1%	9,731	2.0%

回答者から抽出デザインの影響を補正した代表患者の分布は全体として母集団と大きく差はないものの女性が多めである。年齢は、母集団分布は診断時年齢、調査票は調査時の年齢となっているため平均で回答者が約2年加齢している。がん種については回答者では5大がんが多少多めである。ステージは巻末資料7の通り自己申告の正確性には注意が必要である。

本調査では、患者本人あるいは本人が難しい場合には家族、その他の患者と関わりのある代理の人に回答を依頼した。回答者の分布としては、本人が回答した割合78.8%、家族が回答し

た割合 21.0%、その他の代理人が回答した割合 0.2%であった。がん診断後に受けた治療に関しては、「治療した」97.6%「治療しなかった」2.4%であった。現在の治療状況については、「治療も通院も終了している」が 8.3%、「治療を終了したが、経過観察のための通院をしている」が 56.5%、「治療中」が 20.3%、「治療していない」が 0.9%、「その他」が 14.0%であった。「治療中」と回答した人の中では、ホルモン療法が最大で 45.5%、続いて、化学療法 39.3%、手術 12.4%、その他 6.7%、放射線治療 5.4%、内視鏡治療 5.2%、緩和ケア 4.0%と続いた。なお、がん種については母集団では一腫瘍を一人として分布を算出しているのに対し、回答集団においては回答者一人に対して二つ以上の腫瘍の重複回答を許しているため割合の合計値が 100%とならないことに注意する必要がある。